

研究成果情報

【ときめき】 No.473 号
2025年1月28日
島根県農業技術センター

地温上昇抑制による秋冬どり白ネギの収量向上

【要旨】白ネギの秋冬どり作型において、高温期の地温上昇抑制により夏越し後の生育が良好になり、収量増加、収穫時期の前進化が可能となることが明らかになりました。

#白ネギ #秋冬どり #地温上昇抑制 #収量向上

白ネギは水田園芸推進6品目の一です。近年、秋冬どり作型において夏期の高温の影響による生育停滞が著しく、収穫開始時期の遅れや収量の低下が問題となっています。そこで、白ネギの生育遅延と減収に対する夏期の光反射性マルチ被覆の効果について調査しました。

【研究の成果】

農業技術センター試験ほ場において、チェーンポットCP303(2粒/穴)で育苗した‘項羽一本太’を2025年4月22日に定植しました。6月30日にチョーハンシャヤサマー加工(反射力を高めた白黒マルチに孔を加工したもの、みかど化工(株))を畠面に被覆し(以下、マルチ区)、無被覆区と比較しました(写真1)。

その結果、日中の最高地温が8°C程度低く抑えられることが分かりました(図1)。それにより、無被覆区の葉鞘の伸長が夏の高温により停滞している中、マルチ区では9月3日、16日の時点で有意に伸長しました(図2)。12月5日に収穫調査を実施したところ、マルチ区の収量は無被覆区の1.2倍となり、秀品の太物率(3L~2L)は76%でした(図3)。

夏期の地温上昇抑制により、収量増加、収穫時期の前進化による高単価期の出荷が可能になると考えられます。今後、被覆労力、マルチのコストを考慮して収益性を明らかにする予定です。



写真1 光反射性マルチによる被覆

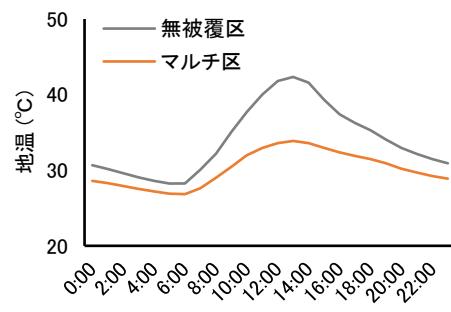


図1 地温の日変化
(7月28日、地下7.5cm測定)

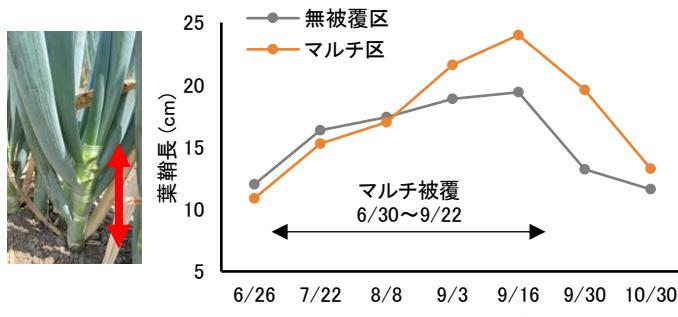


図2 葉鞘長の推移
(土寄せ 6月27日、9月22日、10月10日)

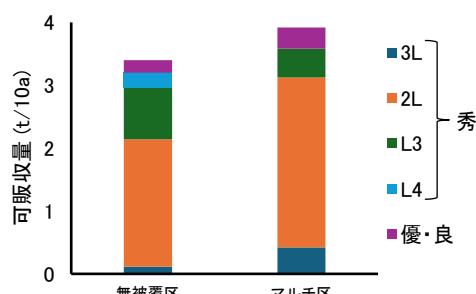


図3 収量と規格割合

【重点推進事項】水田園芸の推進

【問い合わせ先】栽培研究部水田園芸科 武田 晴香